班ゼミ

田中 努

平成 16 年 5 月 27 日

テーマ:結合価パターンへの情緒属性の付与

1 内容

1. 情緒推定機構に用いる知識ベースの構築/前提条件の付与
2. 表現集を用いた条件検査方式の実装/情緒推定能力を評価

2 進捗状況

情緒生起の特徴には，文脈情報や世界知識を用いて解析しなければならない部分があり，その部分は結合価パターンの範囲を越えるため，意味理解から判断情報を得られるものとします．そして，その情報を検査するための属性として「前提条件」を今後付随させていく予定です．

具体的に < 獲得 > の LLF について見ていきます．まず < 獲得 > を付与したパターンとして 2 例ほど挙げます．

結合価パターン: N1 は N2 から N3 に/へ N4 が 上がる
N1(4 人) N2(318 人〈地位〉 224 人〈職業〉) N3(318 人〈地位〉 224 人〈職業〉) N4(318 人〈地位〉“ ポスト”)
生起原因：獲得　情緒：喜び 情緒主：N1　情緒対象：N3

結合価パターン: N1 が/から N2 を N3 に/へ 与える
N1(3 主体) N2(331 称号 927 記章 1857 褒賞) N3(3 主体)
生起原因：獲得　情緒：喜び 情緒主：N3　情緒対象：N2

< 獲得 > について必要な前提条件は例 1 を用いて言えば，

条件 1：< N1 が目標 G をもつ >
条件 2：< 目標 G はプラン P で実現可能 >
条件 3：< プラン P には N3 が必要 >
条件 4：< N4 の入手はコストが高い >

の条件が必要であると考えられます．また，これは例 2 のパターンを見ても十分適用可能と考えられ，《所有的移動》《属性変化》など意味属性のバラツキが少ない用言が多い < 獲得 > についてはほぼ同条件で指定できるものと思われます．

N1 や目標 G などは変数を用意しますが，規則を定める上で条件の過不足などを見るために表記上では口語で記述していきます．

＜獲得＞の反対語の＜喪失＞にもこの条件で頑張れると思われるので意外に短時間で付与できるかも?かも?かも?

3　チラシの裏 (メモ)

前回の研究ゼミで拾った言葉を挙げておきます．

- 「が・は」格や、「に・を」格などで順序だてて見てみると、情緒主、対象がわかって何かわかる???
- 副詞や名詞などでの情緒の変化を見る
- 修正したパターンでの再実験、および分析
- 世の一般の情緒推定システム (会社批判など) の流れとの比較

4　今後の予定

- 前提条件の付与